



すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、今年度と来年度、本校は県の人権・同和教育研究指定校となり、本校のPTAは高P連の「PTA活動」育成事業の対象となりました。ホームページでは、「人権・同和教育だより」をすでに第2号まで発行していますが、今回は1学期の総集編として活動の様子をお知らせしたいと思います。

♣ P T A 今学期の活動から

今学期は、ことのほかPTA生徒育成委員会の方々にご活躍いただきました。6月19日（木）から28日（土）まで実施された‘第1回あいさつ運動’では、教員・風紀委員生徒とともにPTAの方も、8日間にわたり毎朝昇降口に立たれました。そして、生徒が登校して来ると真っ先に大きな声をかけられていたのが、PTAの方でした。さらに会長さんの姿を毎朝お見かけしたところを見ると、皆勤賞だったのではないのでしょうか。

また、期末試験明けの7月7日（月）に実施された‘保護者と生徒の懇談会’では、生徒会を中心に集まった総勢27名の生徒と5名の保護者代表が出席しました。副会長さんの周到的な準備により活発な意見交換がなされ、「ふるさと益田を考える」話し合いが、将来の進路へと深まっていきました。

早朝や平日もいとわず、このように学校や生徒のために何とか役に立ちたいというPTAの方々の熱い思いに接し、たいへん有難いことと頭が下がりました。保護者の方も、学校・生徒に関心を持ってくださることが、学校の人権教育の基盤になるものと思います。本当にお世話になりました。

♣ 人権・同和教育研究授業

7月14日（月）の5、6時間目に人権・同和教育についてのHR活動が実施されました。1年生は「ちがいのちがいを」を題材にして、差別と区別のちがいについて考えました。2年生は部落史について、部落差別の始まりと現在の差別やいじめの関連性から考えました。また3年生は進路決定目前ということで、模擬面接をとおして就職差別について取り組みました。以下は生徒の感想です。

<1年生>

- ・一人ひとり考え方が違うということを改めて感じる事ができた。
- ・よいことか悪いことかわからない問題があるので、普段から考えるべきだと思った。
- ・こんなの簡単だと思っていましたが、なかなか奥が深かった。
- ・今回印象に残ったことは、全員一致だった意見と、バラバラに割れた意見です。自分ではこう思っている、他の人の意見を聞くそうだなと思うところがあった。
- ・この授業では、話し合っ意見交換するのが面白かった。皆それぞれに意見が違うから、授業や会話が楽しくなるのだと気づきました。

<2年生>

- ・現在ではなくてはならない大切な職業の人たちが、江戸時代には差別されていたことに驚いた。
- ・普通の人ができないことをしてくれていた人たちののに、差別するのはひどいと思った。
- ・いじめや差別をされて、苦しく悲しい思いをしている人たちがたくさんいるのに対し、差別している方は相手のことを何も考えずにそういうことをしているのだから、その人たちが相手を思いやれば、いじめや差別はなくなると思った。
- ・差別は区別から始まるが、区別の仕方や見方・感じ方を変えれば、差別はなくなる気がします。



<3年生>

- ・面接試験で答えてはいけない質問をされたら、どのように対応すればよいか分かってよかった。
- ・本番では不適切な質問に対して答えてしまうかもしれませんが、知っているのと知らないのでは違うのでしっかり頭に入れておきたいと思った。
- ・今日の授業で、もうすぐ自分が就職する実感が湧いてきました。
- ・面接官の質問には必ず答えるべきだと思っていたため、面接練習の時から意識してやりたいと思います。

☺夏の人権・同和教育講座のご案内☺

この機会に人権感覚を磨いてみられてはどうでしょうか？今回は、この夏に益田市人権センターで開催される研修会をご案内します。

◆第14回石西地区人権・同和教育研究集会

1. 目的 行政・学校・団体・企業・住民等が一体となり、地域に根差した人権・同和教育を効果的に推進する。
2. 期日 8月19日（火）8：45～16：30
3. 場所 益田市人権センター・隣接する益田市総合福祉センター
4. 内容 講演「若者の立場からみえる部落差別」内屋 綾さん（部落解放同盟福岡市協議会）
実践報告 戸田小学校、益田高校
NPO法人 多文化共生と人権文化LAS
NPO法人 つわぶきの里
意見交流 子どもと人権の視点、人権文化のまちづくりの視点より
5. 申込み締切り 7月31日（木）（0856-22-0642 有川まで）

◆「夢ひきよせる！人権・同和教育2014」

1. 目的 さまざまな人権問題について理解を深める。
2. 期日 ①7月28日（月）13：30～15：00
②8月 7日（木）13：30～15：00
③8月19日（火） 9：30～11：00
3. 場所 いずれも益田市人権センター
4. 内容 ①「子づれシングル家庭の実態調査から～人権同和教育を考える～」
神原文子さん（神戸学院大学）
②「後世に伝えたい部落の歴史～部落差別は今～」
谷元昭信さん（大阪市立大学非常勤講師）
③「若者の立場からみえる部落差別」※第14回研究集会の記念講演と兼ねる
内屋 綾さん（部落解放同盟福岡市協議会）
5. 申込み 事前の申込みはありません。当日参加者名簿に署名してください。

♪ あいさつの達人になろう！

あいさつ運動の期間に限らず、あいさつはコミュニケーションツールの第一歩ですね。本校にも、普段から大きな声で元気よくあいさつできる人もいれば、恥ずかしそうに小さい声でつぶやく人、中には聞こえない人もいます。あいさつした方が気持ちよいということは誰も分かっていると思います。なのに、この違いはどこから…というと、慣れの一言につきると思います。とくに恥ずかしがり屋の人は、まずはあいさつを「返す」初級者編から慣れてみてはどうでしょう。次に「身近な人に、自分から」あいさつしてみましよう（◎中級者編その1）。そうすると、登下校ですれ違う「見知らぬ人にも」あいさつできるようになります（◎中級者編その2）。ここまできたら…上級者編もすぐそこです。相手よりも「自分から先に」声をかける。相手の「顔を見て」返せる。そして「笑顔で」あいさつできる！これが達人の域ではないでしょうか？校内外で心のこもった、爽やかな挨拶が響きあうとよいですね。